



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年11月28日 12月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

北風と太陽どちらだったでしょう

校長 加藤 貴嗣

北風が吹き気温も下がり空気も乾燥している日が多くなり、太陽の暖かな光が恋しく感じるようになる季節となっていました。体調を崩しやすく、インフルエンザにかかる人が増えてきているようです。御家庭でも「咳エチケット、手洗いの励行、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのよい食事」など体調管理に御留意ください。

さて、1月の学校だよりで、子供たちに「自分で決めたことをあきらめずにやり抜くことができる力強さ」「自分の考えと他者の考えを生かしながら、力を合わせて問題を解決する知恵」を身につけてもらいたいと書きました。「自分から考えて行動する」「あきらめないでやりきる」ことの土台は、「根拠のない自信」だと考えています。

先日開催された青少年健全育成地域の集いにおける親野智可等先生のお話に「根拠のない自信」に関わることがありましたので、ご紹介いたします。

「『だらしがない』は短所としてとらえるが、クリエイティブな能力が高い可能性が高いこともあるという研究結果があります。ポイントは可能性の有無ではなく、長所と短所はコインの裏表、長所の裏が短所で短所の裏が長所ということを理解していることが大事です。理解していないと必要に叱る回数が増えてしまいます。子供をよくしようと、『あそこがダメ』『ここがダメ』と言い、できないと『なんでちゃんとやらないの』『やらなきゃダメですよ』『何度言ったらできるの』と、さらに否定的に叱る回数が増えていきます。子供も『直そう』と思っています。頭ではわかっていますが、否定的に責められているので、言われた瞬間に不愉快になります。気持ちが処理できないので、素直に聞く気になれず、言われれば言われるほど反発します。

さらに、いつも否定的な言われ方をしていると、子供は、『自分はダメな子』『自分なんてどうせ』『ダメな子だから、無理、できない』と自己イメージがボロボロ、自己否定感の塊になってしまいます。『自分はこういう人間だ』という自己イメージは、誰もが持っています。自我を形成していく子供にとって自己イメージという思い込みは非常に重要で、自分をつくる自己創造の設計図、青写真になります。

自己イメージがマイナス、自己否定感に凝り固まっていると、チャレンジ精神、努力、向上心はしほみ、少しの壁にぶつかると『やっぱりダメ』『どうせ自分なんて』とあきらめてしまいます。一方、自己肯定感の高い子供は、学習や生活の中で『面白そう』『私がやります、やりたい』と何事にも積極的にチャレンジできる、根拠のない自信をもっています。だから、壁があったとしても、『できるはず』という気持ちが強いので、最後にはできるようになります。

高い自己肯定感、よい自己イメージをもたせてあげることが、子育てや教育の本当に最優先事項の一つで、それを決めるのは親や先生の言葉です。否定的な言葉は子供の自己イメージを下げるだけでなく、そのような言葉を言う人への不信感も高めます。

こんなダメな自分は親に大切にされていないという気持ちから、子供は愛情不足を感じ、不安でたまらないので愛情確認行動に走り、余計に叱られるということを繰り返します。結果として親子関係が壊れてしまうことにつながります。子供にとって一番最初の人間関係である親子関係が不信感になってしまふと、生涯にわたる人間関係の基本が他者不振となってしまいます。そして、反社会的な感情や反社会的な行動につながってしまうこともあります。」と、私たち大人は、子供に愛情があるからこそ、「〇〇しなきゃダメだよ」「なんでしないの」と言いますが、よかれと思って言っていたことが逆効果だったのかもしれない、我が身を振り返り深く考えさせられるお話をしました。

子供に関わる大人、保護者の皆様や私たち教職員、地域の方々が心を合わせて、子供たちとよい関係を築き、子供たちに「人間って信じていいんだ、信頼していいんだ」という他者信頼感をもてるようにすることが、一人一人の子供たちの幸せにつながり、よりよい社会の創り手に成長していくものだと感じました。

お仕事に子育てなどさまざまご多用な日々を過ごされ、年末の慌ただしいところかと思いますが、今年一年のお子さんとの関わりについて、「北風と太陽」どちらであったか振り返りつつ、新しい年に思いをはせていただければと思います。